

第2回大野市小中学校再編計画検討委員会

と き 令和2年7月30日(木)
午後7時より

ところ 結とぴあ 305・306

1 開会

2 開会あいさつ

3 議事

(1) 教育委員会の方針の再確認について

(2) ふるさと学習の方向性について

(3) 部活動運営等の方向性について

(4) 学校再編に対する各委員の思いについて

(5) その他

4 その他

5 閉会あいさつ

大野市教育理念

《理念本文》

明倫の心を重んじ 育てよう 大野人^{おおのびと}

《宣誓文》

人としての生きる道を明らかにし、進取の気象を育てた明倫の心は、いつの時代においても変わらない大野の学びの原点です。

私たちは、この心を大切にして、優しく、賢く、たくましい大野人になるため、学び、育てることに努めていきます。

平成21年3月

大野市教育委員会

明倫（めいりん）とは

大野藩第7代藩主土井利忠（1811～1868年）は、藩の政治や経済の建て直しには、新しい知識を学んだ人材が必要であるという考えに基づき、弘化元年（1844年）に藩校「明倫館」を開設しました。明倫館の「明倫」という言葉は、「皆人倫を明らかにする所以なり」に由来し、人の生きる道を明らかにすること、すなわち、人として守り、行うべき道を明らかにすることを指しています。

明倫館は、当時としては珍しく、武士の子弟に限らず、広く一般家庭の子どもたちにも門戸を開いて学ばせていました。そして、ここで育った人材は、大野藩の商業や鉱業などを盛んにし、藩財政の再建に大きく貢献したとされています。私たちは、この史実に基づいて、大野の教育の全てを貫く普遍の理念を「明倫」と定めます。

学校再編検討に向けた基本方針

令和2年5月26日

大野市教育委員会

1 検討事項

現計画における学校数、再編時期、再編方法について検討する。

2 基本的な進め方

- (1) 現計画の検討及び策定過程を十分に踏まえて検討する。
- (2) 令和元年度に行った各種取組の成果を十分に生かして検討する。

3 基本的な考え方

(1) 小・中学校共通

【基本姿勢】…「大野らしさが生きる教育」を進める。

意見交換会で多く話題になったのが「大野らしい教育」である。大野市の人口規模や立地条件および大野市のもつ人情の厚さ、自然の豊かさ、歴史の重さ等、その長所を十分に生かすとともに時流をとらえた教育を推進できる環境を整える。

【中心的着眼点】…一定規模の学校

確かな学力の保障と豊かな人間性、調和のとれた社会性の育成のため、多様な人間関係を有する一定規模の集団を確保する。

(2) 小学校

【基本姿勢】…地域で育てる。

① 地域の温かい見守りの中で育てる。

子育ての面からとらえれば、幼少期から小学校期は、「しっかり抱いて肌を離さず、肌を離して手を離さず」の時期であり、なるべく親元で育てる。それが子どもの成長の基礎となる心の安定をもたらす。

② 保護者の不安に寄り添う。

意見交換会やアンケートの中で、保護者の最も大きな不安要素は登下校の距離と時間と方法である。その観点からも、特に小学校の通学区域は広げ過ぎないように配慮する。病気やけが、災害等の緊急時にも学校と保護者の迅速な連携が欠かせない。

③ 地域の協力をお願いする。

放課後の子どもの居場所も保護者の大きな不安要素の一つである。学校が再編されたとしても、子どもを見守り育てる機能が地元が必要である。地域に子どもの姿を残すためにも、地元

の絶大なる協力をお願いする。

【中心的着眼点】 … 通常の学級編制

学級編制の基本は通常の編制である。複式学級は特例措置であり、学校教育本来の目的が十分に達成できるとは言いがたい。小学校教育は地域を基盤とするが、複式学級が出現したり、予想できたりする場合は再編の対象とする。複式学級の解消は最低限の目標であり、喫緊の課題である。また、人間関係の固定化を防ぐためにも、学年の編制は複数学級が望ましい。

(3) 中学校

【基本姿勢】 … 市全体で育てる。

① より広い世界で「生きる力」と「社会性」を育てる。

中学校時代は、「手を離して目を離さず」の段階である。少しずつ親元から離し、自立を支援する。また、より多様な個性をもった友人や大人との関わりの中で、社会的にもバランスのとれた人間性を育成する。

② 専門教科教員による教育を保障する。

学校が小規模化すると専門教科教員を全教科にわたって配置できにくくなる。技能・芸術教科を含め、全教科で知的にも情操的にもバランスのとれた教育を保障する。

③ 部活動の選択肢を広げる。

適正規模化で部活動の選択肢も自然と広がる。ただ、部活動の在り方については、現在大きな過渡期を迎えている。社会スポーツとの適切な関係を模索しながら進める。

【中心的着眼点】 … 専門教科教員の配置

専門教科教員を配置できない場合には、免許外で指導できる制度がある。しかし、この制度も小学校の複式学級と同様に特例である。国語・社会・数学・理科・英語・音楽・美術・技術家庭・保健体育の全教科にわたり、専門教科教員による教育環境を整えることが求められる。

(4) その他

- ・児童生徒に過度な負担が想定される等、必要がある場合は別途検討を行う。
- ・校舎の現状や地域の状況等も十分勘案し総合的に検討する。

4 その他

- ・検討過程を公開し、市民が進捗状況を把握できるよう進める。
- ・市全体に関わる再編となる。慎重に丁寧に着実に進める。

ふるさと学習の方向性について

大野市小中学校再編計画 6ページ参照

1 ふるさと学習の現状

平成28年3月 大野市教育大綱を策定（大野市の教育における最上位の方針を示したもの）

基本理念 「大野市教育理念」 明倫の心を重んじ 育てよう 大野人

- 基本施策1 結の心あふれる人づくり
- 基本施策2 豊かな心を育てる文化力の育成
- 基本施策3 活力あふれるスポーツ社会の実現

施策1 地域の特性を生かし、ふるさとに根ざした特色ある学校づくり【抜粋】

地域の特性を生かしたふるさとを知り、ふるさとを創る活動を通して、大野人の育成を図ります。

児童生徒一人一人の豊かな心やたくましく生きる力を育むため、積極的に体験活動を取り入れとともに、地域の人々とのふれあい活動を展開します。

教員一人一人の指導力の向上と、家庭・地域との連携を推進し、学校の教育力の向上を図ります。

(1) ふるさとを知り、ふるさとを創る学習の充実

- ① ふるさとを題材にした冊子「わたしたちの結の故郷」を活用するなど、教育活動全体を通して結の心を育てます。
- ② 小学生による「結の故郷ふるさと学習交流会」や、中学生による「結の故郷中学生みこし・ダンスパフォーマンス」などを開催し、ふるさとへの誇りと愛着を育てます。

③ 小学校において、大野の先人の生き方や偉業を学び、明倫の心を育てます。

(2) 学校の教育力の向上

(3) 学校教育環境の整備

ふるさと学習の方向性について

2 学校でのふるさと学習 (令和2年度) ◎主に総合的な学習の時間を活用

【平成24年4月 蕨生小学校 → 富田小学校】

蕨生小学校 総合的な学習の時間
ふるさと学習「里神楽」

↓

富田小学校 引き継ぐ

○特設クラブ「神楽クラブ」(1月結成)

- ・ 蕨生地区の児童に限らず希望する児童が参加
- ・ 地域の人が講師として指導、公民館との連携
- ・ 4月の第1週の日曜日に発表

▲講師の世代交代が進み、若い講師はクラブの時間に仕事を休みにくい。

○総合的な学習の時間

3年「富田の宝つたえ隊」

- ・ 地域の歴史、残したいものの調査
地区区長のお宝案内

4年「富田の水防衛隊」

- ・ 内川の水性生物調査、水環境を守る実践
水土里ネットの協力

5年「地域をつなぐ」

- ・ 自然薯栽培、地域のためできること
自然薯ファーム大野の協力

6年「みんなのために」

- ・ 地域の働く人々の姿、様々な職業調査
- ・ 働くことの意義、自分の将来


【令和3年4月(予定) 乾側小学校 → 下庄小学校】

乾側小学校

○総合的な学習の時間

3・4年「地域の歴史伝統・ふれあい」

- ・ 犬山城址、雨乞い踊り
雨乞い踊り保存会の協力



5・6年 環境学習「乾側の農業を学ぶ」

- ・ 農業用排水路の生物・水質調査
アバンセ乾側、水土里ネットの協力

下庄小学校

○総合的な学習の時間

3年「大野の水」

- ・ 大野の水、下庄地区のお清水調査

4年「SDGs 環境教育」

- ・ 大野の自然、コロナとともに生きる

5年「大野の歴史をさぐるう」

- ・ 城、偉人、寺

6年「大野のよさを広めよう」

- ・ 大野のよさの発見、調査、魅力発信

ふるさと学習の方向性について

3 意見交換会やアンケートでの意見

1 教育に関する意見交換会（令和元年5月28日～11月28日 計41回 延べ794人参加）

地区の人が地区の子どもを育てていく環境（地域行事など）は止めてはいけない。地域住民がどうやって子どもを育てていくかの面にも、学校教育と同じぐらい光を当てていかないといけないと思う。

大野に来て感じたことは、地域の子どもは地域で守ることをすごく感じている。再編で地域に学校がなくなることを不安に感じている人は多いと思う。

中学校は部活のこともあるが、大きいコミュニティの中で成長してほしいので、小学校より先に再編を進めてほしい。小学校時代は地域で育てていきたい。

小学校は地域の行事に参加して育ててもらえており、大事なことと思っている。

地域と子どもの間を埋める代替案、公民館を使うなど、地域との関係を保っていけるような方法があればと思っている。

小学校が地域からなくなると、子どもの姿が見えなくなるので寂しい。子どもの姿が地域で見れることは癒しである。

家族や校区の住民、地域の協調社会の中で子どもは育てていくべきと思う。それを踏まえて、学校の適正な規模を考えていかないといけない。以前は、子どもを育てることに対して効率主義を前面に出していたと思う。それぞれが地域で育てることを見失ってはいけない。

ふるさと学習の方向性について

3 意見交換会やアンケートでの意見

- 2 将来の教育環境に関するアンケート調査（教育シンポジウム及び意見交換会参加者 944人中822人回答）
 地域とのつながりを大切にしたい学習はどうか。誰が教えてつないでいくようになるのか。継承して
 いけるのか。
 小学校がなくなると地区がすたれるのではないか。地区のまとまりはなくなる。
 小学校がなくなるとは地域コミュニティにとって大きな課題（それをどう克服していくか）
 家庭・地域の良さを子供たちが感じることでできる大野の教育環境はそれだけでも素晴らしいこと。
 より良いより良いというが、上ばかりを求めていくと足元がぐらつくというようになります。人口減少
 するから………というのではなく、人口減少するなかでも人生道を歩く人としての基盤を育てる子供時代を
 生きる(学ぶ)学校教育として教育環境を準備する。ふるさと大野になるためにも大野独特の環境づくりをつ
 くる。
 大野をテーマにした学習をして子供たちは、知らず知らずのうちに大野の事を知る機会となっている。
 それが大野を大切に思う気持ちにつながっている。
 学校は地域のコミュニティの核であり、小学校がなくなるとは慎重にしてほしい。子供は地域の宝です。
 大野市の現状に合った教育方針があっても良いように思います。他の市町では学ぶ事が出来ない、体験す
 ることが出来ない素晴らしい社会資源があるので、それを活かしたアクティブラーニングをすすめられても
 良いと思います。
 子どもが大人になってから戻りたい地域、学校になるといいと思います。
 地域とのつながりを大切にしたいと思う。地域の協力なくして学校はないと思う。学力だけでなく心
 の教育にも重きを置いてほしい。
 地域における子どもを育てる組織、仕組みを見直すことが必要と思います。

ふるさと学習の方向性について

4 学校でのふるさと学習

総合的な学習の時間（新学習指導要領より）

【目的】

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する。

- ・各学校がふさわしい探究課題を設定する
国際理解、情報、環境、福祉・健康、地域（児童の興味関心）
- ・身近な自然環境とその問題、地域の伝統や文化、その継承
- ・実社会で働く人々の姿と自己の将来



主に、総合的な学習の時間を活用してふるさと学習を推進してきた。今後、各校の実態や子どもたちの思いに合わせて、探究活動を主とした総合的な学習の時間の充実を図る。

これからの大野市のふるさと学習

- ふるさと学習は、各学校の特色を生かしつつ地域と連携した学習を進めていく。
- 総合的な学習の時間では、自ら課題を設定し、探求活動を実施し、家庭や地域に積極的に発信するふるさと学習を展開する。
- 地域の伝統の継承については、各地域や公民館が推進していくなど、地域ぐるみで考えていく必要がある。

他の小学校の再編後の状況（蕨生小学校 → 富田小学校へ統合）

蕨生小学校で実施していた地域の伝統を学ぶ取り組みを富田小学校や公民館が引き継いでいるものがある
放課後子ども教室は、公民館において実施している
地域（地区）を知る取り組みは、富田小学校が引き継いで行っている
乾側小学校の先行再編に向けた協議の状況（保護者、小学校の考え）
児童に、乾側地区に対する誇りを持たせたい
放課後子ども教室は、再編後も継続してほしい
学校で実施していた行事について、乾側地区で引き継げるものは継続して実施してほしい

ふるさと学習の方向性について

5 ふるさと学習の課題と教育委員会の考え

- ▶ 意見交換会、アンケートからの課題
再編によって地域（地区）から学校がなくなる不安感
 - ・寂しい、衰退する、地域の伝統が継承されない
 - ・学校と地域が連携しにくくなり、住んでいる地域のことが学べなくなる



□ 教育委員会の考え

小学校の再編にあたっての基本姿勢を「地域で育てる」としている。幼少期は、今までどおり地域の温かい見守りの中で育てること、地域の協力をお願いすることを基本にした取り組みを進めていく方針としている。

このため、地域から学校がなくなる不安感を拭い去るため、計画を進める際には学校、保護者、地域の人たちと丁寧に話し合うことで、理解を深め地域の実情に合ったあり方を確立する。

地域と学校、公民館（行政）が連携し、子どもたちが地域のことを学び、誇りや愛着を持つことができるものと考ええる。

《具体的な対応策の例》

- ・寂しい、衰退する
 - 公民館を活動の拠点として、子どもたちを地域に戻す（放課後こども教室など）
- ・地域の伝統が継承されない
 - 地域コミュニティが維持できるよう、地域と学校、公民館（行政）がそれぞれの役割を確認しながら、連携・協働して地域の文化・伝統を継承する（ふるさとの宝を調べたり、各地区に伝わる伝統芸能の体験など）
- ・学校と地域が連携しにくくなる
 - 地域における学校の役割は統合した学校に引き継がれるが、学校でできなくなるものについては、お互いの話し合いの場を設けてそれぞれの役割を確認、分担して連携する
 - 公民館、地域、学校が連携することで、小学生だけでなく地区内に住む中高生なども取り込むことが可能になり、活動の幅がさらに広がる（祭り、体育大会など）

➤ 教育環境に関する意見交換会での意見

・再編に賛成する人の意見

3 ふるさと教育（地域活性）について 【教育環境に関する意見交換会結果報告書 P6～7】
小学校の間は、地域との結びつきが大事であると感じている。中学校はある程度、人数の多い方が競争し合えたり、いろいろな先生と関わったりするのでいいかと思う。
上庄に小学校を残してほしい。中学校は、ソフトボール部の人数が少なく他の部から借りてくることも考えている。
子どもたちの環境として一番望むのは、小学校の間だけは地元で育てたいと思うが、学校行事が成り立たなくなるような状況は望ましくないと思う。中学校については、最低2校は必要と考える。9年間安心した状況で過ごせることはいいことだが、新しい考え方が入って来ないことで、気付かないことがどんどん増え、高校に入ったとき、突然、不適應を起こすことがあるかもしれない。上庄という地域性は良いが、考えの多様性が失われる場合もあるので、新しい時代に必要な創造性や力がつけられない可能性もあるかと思っている。再編する場合は、子どもたちに負担がかからない形で考えてほしい。
小学校は地域に残してほしい。自分の生活の一端をとられるような気がしている。再編計画が出たとき、子どもが上庄小学校がなくなることに對して寂しそうにしていた。中学校は部活の問題が一番であるが、選択肢が増えることでストレスになるのではないかと思っている。部活だけを市全体でつくるのがいいのではと思っている。複式のある学校の再編は、その地域で進めていただき、上庄は別で考えてほしい。
阪谷小学校は現在29人しかいない。昔に比べると運動会の種目も少なくなった。でも、地域の特色を生かした活動、田植えやどろんどろんピックなどを行っている。人数が少なくなったのでどこかと一緒になりたい気持ちはある。今すぐにも行きたい。阪谷に学校がなくなると人が住まなくなるかとも思っている。
適正規模や部活動などを考えると再編は仕方がないと思う。規模などは教育委員会に任せたい。再編後、地域とのつながりのある学習をどうしていくかなどを考えてほしい。地域に学校がなくなっても、そのようなつながりがあることで地域の人も違った見方をしてくれると思う。
先細りが見えている現状で統廃合は避けられない中、地域のための学校でなく子どものための学校であってほしい。地域が廃れるとよく聞かすが、地域は行政機関に任せて、学校は子どもを育てることにもっと力を傾けて良いと思う。教育の明確なビジョンを出してほしい。例えば、全国の中でも先進的にICTを進め、全教室にプロジェクターを入れるとか、全員にタブレットを持たせて勉強させるなどして、空いた時間に子どもたちを見守ったり、体験活動に力を入れたりするなどである。
子どもたちの良い教育環境とは、学校教育だけではないと思う。例えば、自分が住んでいる地区には小学生が3人だが、子ども神輿はやっている。育成会は休止している。地区の人が地区の子どもを育てていく環境（地区行事など）は止めてはいけない。社会教育・生涯教育の面で、子どもが少なく育成会などが行政区ごとに出来ない状況であり、広い範囲による育成会の活動を支援する働きかけをしてほしい。育成会がなくなると、ラジオ体操や夏祭りなどがなくなり、寂しい大野になる気がする。地域住民がどうやって子どもを育てていくかの面にも、学校教育と同じぐらい光を当てていかなければいけないと思う。
複式学級を解消するような再編をした方が良いと思う。下庄小の今の環境がちょうど良く守っていききたい。自分が家を建てる時、近くに保育園や小中学校があるかを基準に選んだ。大野に来て感じたことは、地域の子どもは地域で守ることをすごく感じている。再編で地域に学校がなくなると不安を感じている人は多いと思う。
小学校は小規模校で良く、中学校は1校の再編でも良いと思っている。地域から学校がなくなると過疎化が進むと思う。村部の学校は自然も多く、子どもたちにとっては良い環境だと思う。若い人たちが村部に残る理由にもなる。
移住のとき、子どもが歩ける範囲に学校があることで安心できた。移住希望者の相談では、絶対学校について聞かれる。しかし、小学校と中学校は要素が違う。中学校は部活のこともあるが、大きいコミュニティの中で成長してほしいので、小学校より先に再編を進めてほしい。小学校時代は地域で育てていきたい。
小学校は地域の行事に参加して育ててもらっており、大事なことと思っている。小学校は人数が少なくても良い。中学校は部活や人間関係のことがあるので、多い人数の方が良い。中学校は1校ではなく、せめて2校だと思う。
考える力をつける環境が必要と考える。また、いろいろな体験ができることが必要。上庄は登下校で自然の四季を感じることができる。中学校は2から3校にして、出来る限り村部に配置してもらった方がいいと思う。部活は市全体で作って、練習場所へはスクールバスで送迎する方がいいと思う。
小学校と中学校では再編の意味が違うと思っている。小学校は地域とのつながりを覚えていく時期で、中学校は自分を高めていきたいという時期だと思う。小学校は歩いていける範囲にあった方がいいと思っている。
現再編計画では、地域との関わりが薄くなり、寂しくなると思う。地域と子どもの間を埋める代替案、公民館を使うなど、地域との関係を保っていけるような方法があればと思っている。

<p>スクールバス通学になると子どもの体力が落ちると思う。行き帰りの道草の学習など上庄だから出来る子育てがあると 思う。小学校の間は少人数で学習しても良い。中学校では、大きな所でもまれて社会に出る準備をしなければならない。 上庄には独自のコミュニティがあり、安心感がある。地域みんなが見てくれる中で、のびのび育て欲しいと思っ ている。</p>
<p>地域と密着した教育をこれからも行い、子どもに地元の良さをもっと発信し、将来地元へ帰って来ようと思う子どもが 1人でも増えると良い。</p>
<p>学校再編の第一は、子どもの幸せである。学校再編すれば、地域の良い伝統や文化を衰退させる。地域の要望を大切に した再編の見直しであって欲しい。地域の実情を無視した形であってはならない。</p>
<p>学校は教育の場である。保護者が中心になって学校をどうしたいのかを考え、それから、地域ではどうかと下りてくる のが良い。その後、地域でバックアップすることがあるのか、もし学校がなくなるのであれば、地域をどうすればいい のかは、後で考えれば良いことである。</p>
<p>再編の中心は子どもだと思いが、先生が働きやすく、教えやすいという環境も大事である。また、地域で子どもを育て ているということも考慮して欲しい。</p>
<p>再編は絶対必要と思いが、数合わせの再編はやめて欲しい。各地区の地域性を考慮しながら再編を進めて欲しい。</p>
<p>学校を再編することで、子どもの将来が確約されるという主張が先生から出てこない。再編は、市の財政を考え、経費 が掛かるからという理由が柱になっていると思う。どこの地域の学校も1クラス5人ぐらいになったら、他の学校との 再編を考えるのが自然であると思う。子ども中心に学校再編を考えないといけない。教育にはお金を掛けないといけな い。上庄小が地域からなくなると、子どもの姿が見えなくなるので寂しい。子どもの姿が地域で見れることは癒してあ る。</p>
<p>ある規模の学校にしないといけないのは分かる。家族や校区の住民、地域の協調社会の中で子どもは育ていくべきと 思う。それを踏まえて、学校の適正な規模を考えていかないといけない。以前は、子どもを育てることに対して効率主 義を前面に出していたと思う。それぞれの地域で育てることを見失ってはいけない。</p>

・再編に反対する人の意見

<p>3 ふるさと教育（地域活性）について 【教育環境に関する意見交換会結果報告書 P16～17】</p>
<p>地域が衰退するので、少人数でも今の学校のままでいいと思う。</p>
<p>上庄は、地区に学校を残して欲しいという人が多いと思う。その意見が採用されるのかどうかの不安がある。意見集約 がどのような形で反映されるのか。いろいろなパターンをシュミレーションして、経費をしっかりと出して欲しい。</p>
<p>子どもは複式でも、1学年に1クラスでも、たくさん児童がいる中でも、その中の1人として、生きる術を学ぶと思う。 学校は地域のものと基本的に思っている。子どもの頃から地域のいろいろな人を知っているのが当たり前と思っていた。 地域の濃厚さは、校区が広がれば広がるほど薄れていく。音楽や美術などの教科の指導について、先生は専任ではない が一生懸命してくれると思うので、そんなに影響はないと感じている。部活については、全員が納得できる部に入れる 訳ではない。子どもはやったことのないスポーツをやっているが、自分なりに頑張っているのが有難い。部活が一番思 い出に残るかもしれないが、日々のいろいろな所で育てているのではないかと思う。</p>
<p>移住を検討するとき、そこに学校があるか、保育園があるかを考えた。和泉なら特色もあり、子どもは成長してくれ ると思った。地域と学校のつながりが深い。単に人数が少なくなってきただけで再編を考えるのは寂しい。インターネッ トを使ってグループワークなどをすれば、少人数をカバーできると思う。分校で残してほしい。</p>
<p>和泉のことを学ぶには、ここに学校がないと厳しいと思う。和泉昇竜太鼓、穴馬の紙すき、紅葉まつりの芋販売など地 域にいるからこそ出来る学習がある。学校がないと良い伝統がなくなる。</p>
<p>自分は、集団登校をしながら、上の学年の子どもたちから交通マナーなどを学んだ。スクールバスで通うようになると、 交通マナーを学ばなくなったり、体力がなくなったり、外で遊んだりしなくなると思う。自然があるのに、教育に生か していない気がするし、校外学習が減っている感じがする。</p>
<p>学校がなくなり人がいなくなることで、地域が疲弊することを考えると、里山を守るために草刈りをしたり、農道を整 備したり、集落排水を維持したりすることが出来なくなる恐れがあり心配だ。</p>
<p>一番心配なのは、住んでいる地域に学校がなくなることで過疎化することである。</p>
<p>学校は地域コミュニティの拠点の役目を果たしているため、高齢者から学校再編に対して、かなりの反対がある。</p>
<p>小学校が2校になると、市の中心部に学校が建てられると思い、村部は過疎化すると思った。村部は人が少なくなると いう不安感があり、寂しいと感じた。</p>
<p>市街地に学校が再編されると村部に誰も住みたくなくなると思う。</p>
<p>地区体協主催の運動会などには学校の子どもが参加してもらっているが、尻すぼみになり、他の地区行事も実施が困難</p>

<p>になるかもしれない。地区の交流がどんどん減っていくのかと思っている。</p>
<p>市街の学校に再編となった場合、家から学校までの通学が片道1時間は掛かる。小学校1年生が毎日通うのは、体力的に無理ではないかと判断している。1番の問題は地域が元気でなければならない。そこに住む人や子どもも元気でなければならない。1つでも無くなったら地域は衰退する。よって、この地域に学校は絶対残すべきだ。</p>
<p>学校が再編されると地域が崩壊する。乾側小をなんらかの形、例えば特認校方式などで残して欲しい。子どもと地域とのつながりの場所を残していきたい。地域が崩壊したら、地域行事などでの助け合いがなくなる。子どもを大きい学校で学ばせたいと思うが、そうしなければならないのであれば、地域の活性化策を考えて欲しい。</p>
<p>中学校1校になると、小山地区の地域性がなくなる。市総体などの運営に影響があるのではないかとと思っている。</p>
<p>子どもは地域で育て、みんなで協力して育てるのが一番だと思う。勝山市は、未だに各地域に小学校1校ある。地域の中で学校がいろいろな行事をしている。我が子が複式でのびのび育ち、先生の目がすぐ届いていた。低学年の子を良く世話をするとか、忘れ物をしない、校庭のゴミを拾うなどそのようなことをすごく先生が大切にしてくれた。小学校ではこういうことが大切だと思う。小さい子どもへの教育にはもっとお金をかけて欲しい。</p>
<p>上庄中の学校を利用して、小中一貫校にして欲しい。子どもが夏祭りで活躍してくれているので、再編で市街の学校へ通うようになった子どもが地区の行事に参加してくれるか不安である。</p>
<p>小学校が地区にあると地域の絆が深まる。年配者はこの絆を大事にしたいと思うから、再編に反対となる。上庄地区には小学校を残して欲しい。</p>
<p>再編計画で小学校2校、中学校1校になると聞いた時はびっくりした。下庄小がなくなることにショックだった。また、子どもたちと公民館が一体となった素晴らしい施設である有終西小(学びの里「めいりん」)がなくなることについても寂しく感じた。地域とつながりを大切にする教育を進めるとしているのに、地域から子どもたちがいなくなるのは矛盾していると思う。</p>
<p>地域の人の話より、子どもを主体とした再編をして欲しいという意見があったが、学校の存在は地域にとって大きなことである。また、不登校や発達障害の子どもたちが行きやすい学校にならないといけないと思う。その子どもたちのためにも、地域に学校を残していくべきと考える。</p>
<p>小学校は地域の核であると思う。子どもは大人に見守られている環境にある。バスで遠くの学校へ行くと、地域の方とのつながりがなくなると思う。</p>

➤ 将来の教育環境に関するアンケート調査回答 (抜粋)

- ・問11 学校の再編で不安なことはありますか。で「ある」－「ケ その他」の意見について【記述回答/集約意見】

2 地域(ふるさと教育、地区の衰退等)について 【アンケート結果 P76~77】
地域から若い人がいなくなる。
各学校の伝統等の継承。
学校のPTA役員は子供の親だけでなく、その校区で子供達の将来を考える人も参加してほしい。なぜならば、学校の子供は地域の宝として、地域にとっても大切に思う考え方が必要。
建物を建てるのが目的でなくより良い地域の教育を目標にされているのか考えたい。
学校がなくなった地域がなりたつのか?地域の伝統が絶えることもある。
地域の衰退が進んでしまわないか?
地域と住民のかかわりが少なくなる。
地域の消滅。
地域の衰退。
地域とのつながりを大切にしたい学習はどうするのか。誰が教えてつないでいこうになるのか。継承していけるのか。
地域から学校がなくなるとのこと…。
地域の衰退。
学校がなくなった地域の過疎化、外国籍の児童が増えていくのでは。
小学校がなくなると地区のまとまりはなくなる。

エ→下校先、児童センターに帰る低学年はどうなる。 キ→村部はますます過疎化。 ク→人が使わないとさびれる。 ケ→地域の伝統芸能、宝…これまで各校で培ってきた地域の愛着は校区が広がった時、どうするのか。
地区、地域の衰退化
学校がなくなると地区がすたれるのではないか。
地域ごとの特色が薄れるのではないか。
小学校がなくなるとは地域コミュニティにとって大きな課題（それをどう克服していくか）
地域から学校を少なくすることが自治体の仕事と考えられる。
本音は一地区一小学校であってほしい
地域がなくなるのではないか。
地域（校区）との交流の場が失われるのではないか。

- ・ 問 1 2 大野市の現在の教育環境や将来の教育環境に期待すること、要望することについて【自由意見／集約結果】

2 教育環境について（独自の教育等） 【アンケート結果 P82～84】
子供達が安心して通えるように、心温まる環境を作って。
現在の教育環境良いと思います。将来の教育環境はわかりません。
大野高校の空き棟を活用した奥越中高一貫など高校まで大野で育てる環境。再編による新校舎、既存教室の改修に合わせて、IT環境と人材確保、養護児童、生徒空間の確保。地域の支えで行っている行事が学校にとって不可欠なものか、各校で地域協議会を活用して洗い出し、そのうえで学校の機能を地域ごとに固める。
「進取の気象」…ただ現状維持もしくは少人数の集団生活では、甘えしかない!!厳しい現場にあってこそ強い人間が育つ。
再編は不安ではない。集まれば職員数も増え、より専門的な教育が受けられる。
教育現場で働いています。1学年1学級以下の学校が10/15です。1学年2学級以上の学校には、いろんな人間と関われるチャンスが単級のそれよりも多いと思います。教員数もいますから、多様な活動を子供に用意できると考えます。22世紀に向かう大野の教育百年構想(教育内容、人材育成、ハード面)が必要だと思います。
家庭・地域の良さを子供たちが感じることができる大野の教育環境はそれだけでも素晴らしいこと。
自ら課題を見つけ解決していく力をつけるには、人的環境が大切であると思う。物的環境だけに目を向けられないように考えていく必要がある。
今日のシンポジウムは、とてもよかったです。これからも、この様な場を設けていただき、考える機会がほしいです。子供は子供から学ぶ考え方に賛成なので、人数が多く、見本となる環境を用意したい。
市独自の教育環境も大切にしていくこともよいと考える(一人一人を大切にすきめ細やかさ)
世の中(世界)のスタンダードを学ぶ事ができる教育環境が必要と考えます。あまりにも「井の中のかわず」という面が多く見られるので。社会に出てから学ぶのでは遅い。社会に出る前の世界標準の土台作りが大切。再編についてはメリットデメリットを考えたらうで、総合的に再編に賛成である。和泉地区のみ義務教育学校設置の案もありだと思う。
より良いより良いというが、上ばかりを求めていくと足元がぐらつくというような気がします。人口減少するから……というのではなくて、人口減少するなかでも人生道を歩く人としての基盤を育てる子供時代を生きる(学ぶ)学校教育として教育環境を準備する。ふるさと大野になるためにも大野独特の環境づくりをつくる。このシンポジウムを開催していただき本当にありがとうございました。
市外に在住している者ですが、身内が大野で暮らしている様子を目の当たりにすると、大野市の現状に合った教育方針があっても良いように思います。他の市町では学ぶ事が出来ない、体験することが出来ないすばらしい社会資源があるので、それを活かしたアクティブラーニングをすすめられても良いと思います。
学校再編のことがやはり注意を引きますが100%同意は得られません。現在の、未来の子どもたちのためにより良い教育環境を目指してよろしく願います。一保護者、一地域の住民として精一杯協力します。
他校との交流の回数を増やしてほしい。
他校同士の子どもたちによる1泊2日でのスキー教室やイベントなどを、市教委から各機関に働きかけをしてほしい。他校との交流について、可能な範囲で回数を増やしてほしい。特に低学年においては、保育園からの友だちといった意味でもお願いしたい。
個人個人が昨日より今日できる事をほめてもらえる教育環境が良いです。

<p>大野市は、これまでも、これからも優秀な人材を育てていくことができる落ち着いた環境と優れた教育者に恵まれていると思います。残念なのは、国家が望ましいと考える教育に忠実過ぎて、大野市のために活躍する人材育成の視点が弱すぎたと思います。ぜひ、もっと我がままに人材育成していただきたいと思います。優秀なサラリーマン、官僚の卵をたくさん育てても、大野に帰って来て貢献していただいたのは、大野市役所にお勤めの皆様を含む、ごくごく一部です。安倍内閣は、本社機能を地方に移転するなどの数値目標を掲げましたが、達成にほど遠い状況です。都会の大会社に入って世界と競争、活躍することを目指す人材よりも、身近な地域の課題を目ざとく見つけ、その解決策をビジネスに仕立てて、小さな雇用を生み出せるような人材育成に重きをおいていただきたいと思います。</p> <p>福井県が大野市にある高校の数を減らそうとしてきたら、大野市立高校にするか、勝山と組合をつくってでも残して、独自性のある教育、大野に必要な人材、いずれ大野に帰って来て、大野の持続的発展に貢献する人材を育成する仕組みをつくっていただけることを願っています。</p> <p>学校再編の問題を機会に、村部の子育て世代は、これまで希薄過ぎた危機感が高まっていると感じます。地域の存続、活性化のために、このままではダメだと考える人も増えているようですが、そこから、何をどうすればよいのか、途方に暮れている状況だと思います。シニア世代との温度差もあるように感じます。他市では、公民館からコミュニセンターへの衣替えが進み、地域住民による自治、地域経営を後押ししているように感じます。これまで地域は市役所に大きく依存してきたと思いますが、このままではいつまでたっても、自立は望めないと思います。大野市でも地域の自立を後押ししていただける仕組みづくりを願っています。</p>
<p>子どもたちのことを考えた、子どものための教育環境を整え、そのために細かな説明や準備をしていってほしい。</p>
<p>大野市ならではの教育、指導内容を盛り込んでほしい。大野市の良さを理解、説明できるような人材に育てる教育をしてほしい。</p>
<p>子どもが1日どんな様子だったのか分かるシステムがあるとよい。</p>
<p>現在の教育環境はとても良いと思います。</p>
<p>子どもが安心安全第一に学校生活ができるよう望みます。現状に満足しています。</p>
<p>今の教育環境に不満はありません。この地域は過疎が進んでいるので学校がなくなるとさらに人口が減るという不安があると思います。移住してくる人が減るのではないかと。中学校の特色などを生かしてほしいです。</p>
<p>クラス人数が少ないので他の学校との交流がありますが異動も大変なのでICTを使ってできないか。小学生には市街までの通学は無理です。</p>
<p>子どもたちがワクワクするような教育環境をお願いします。和泉の教育環境は大変恵まれており、是非大野の子どもたちも和泉に来て欲しいと思います。</p>
<p>和泉小中は必ず残して欲しい。この地域は大野にとって全国に発信していける魅力ある特色になり得ると思う。私が和泉で生きる意味をなくさないでほしい。合併の場合、学校はどこか。和泉か。親が迎えに行くのか。スクールバスで早い時間に帰ってきても困る。ICTの充実ならネットで授業をつなげばよいのでは。少人数であることの方が良いように聞こえる。和泉に来たからこそ輝けている。学力も落ちずについていっている。自信を持っている。多人数だったら無理。</p>
<p>大野市の「ふるさとを愛する」教育のおかげで、中2の娘(小1から5人のクラス、8年目)は私以上に和泉を愛しています。和泉からどんな大変で不便でも「出たくない」と言っています。和泉っ子は全員が郷土愛であふれています。おかげ様です。和泉っ子であることを誇りに思っています。この教育環境を大人が勝手に壊してしまうのは本当にどうなのかと思います。財源、人口減など確かに厳しいですが大野の先生方が築いて下さった「ふるさとを愛する中学生」を何とか残していただけたらと強く思います。この子たちを守るような再編を強く要望します。</p>
<p>大野の良さは何か、大野の教育の良さ、特徴は何かを考えると、地域とのつながり、少人数での手厚い指導ではないかと思う。それをなくさないようにしないと、人口減少、少子化は変わらないと思います。魅力ある大野の教育を大切にしてほしい。</p>
<p>グループ活動の中で、小さい学校こそよいところがあるという話が出ました。中学を1校にしてしまうのは危険でないか？ ワンクッションにおいて2校にしたい。あれは中学は、マンモス校…立て直し大変です。上庄、尚徳は平和ですが、小規模校の良さでは？</p>
<p>デジタル教科書をどの学校、どのクラスでも使えるようにしてほしい。</p>
<p>ネットワークや情報を上手く活用できる力がつくような教育。新築する際、施設の造りをその分野の専門家や現場で働く人の意見をしっかり取り入れ、使いやすい学校にしてほしい。</p>
<p>情報化社会、AI化、いろいろ社会が変化していく中で学校で学ぶ子どもたちが、少しでも確かなことを学べるように…と考えると、せめて中学校では免許外を教える必要がないように教員を配置したり、小学校にも外国語教師を配置したりを望みます。</p>
<p>低学年もデジタル教科書を整備してほしい。気がかりは児童生徒に対応できるよう担任以外の人員配置をお願いしたい。</p>
<p>情報化、学校でのネット環境を整えてほしい。教員のやるべき仕事かどうか、仕事の見直し。</p>
<p>1人1台のタブレットは必要だと思います。</p>
<p>いろいろな学びの場を子どもが得られるようにしてほしい。学校が教育の中心だけでなく、コミュニティの中核としての役割も考えてはどうか？</p>
<p>専門家がどの学校にもいる環境がよい。(各教科、SC、栄養教諭など)</p>
<p>IT化をもっと進めて欲しい。</p>
<p>生きる力、たくましいを育んだ教育を。</p>
<p>部活動がある程度の種類があって欲しい。すごく美味しいあったかい給食。</p>

冬場なかなか外に出られないということを活かした活動があると良い。
全教室にエアコンをつけて快適に授業を受けられるようにしてあげてほしい。
子どもの立場になって一番良い環境を考えてもらいたい。
基本的に再編賛成派です。今日、教育委員会の方々のお話を聞き、大野の教育環境のことや子どもたちのことをよく考えてくれているのがすごく伝わってきました。反対意見のある方ももちろんいますが何より大人たちの都合より子どもたちのより良い未来のために再編を考えていてもらいたいと思いました。ランドセルを統一したいという意見もありましたが、私は個人個人の自由がいいなと思いました。ランドセルでもナップサックでも何でもいいのが良いです。
小学校以上だと学校と親の関わりがすごく減ると聞いたので、意見できる場、相談できる場を定期的に設けて欲しい。
発達障害児がどういう形で学校生活を送るのか、いまいよく分かりません。自分の子どもは発達障害の診断を受けているので、他の子と同じように授業を受けられるのか、もしパニックを起こしたら学校側でも対応してもらえるのか、また言語遅滞のある子どもにどのような対応をしてもらえるのか、心配は尽きません。自分の子ども1人のために学校にいろいろな要求をしても良いのか、それも迷うところです。
ハコモノにこだわらず不登校でも学習の遅れが出ないように、ICTの活用や学校から遠い子が部活動が出来るよう、移動や学習に差が出ないかが心配で配慮して欲しい。
少人数だからこそその密な関わり合いが望まれる。また小学校だけれど専門の先生の配置も出来ればお願いしたい。
上庄地区で育った小学校時代の思い出、地域の人の関わりがあったから今の自分がいます。ここで子育てしたいと考え、大野に戻って来ました。小学校の時期は環境がすごく大事だと思います。心豊かな大人に育てて欲しい。是非上庄小学校を残して下さい。よろしくお願いします。
AI、ICTを最大限に利用した教育。地域を巻き込んだ教育。
小学校は少人数で先生の目が届くようにして欲しい。
再編について、子ども、親、地域のつながりがあるような環境にして欲しい。
田舎なら田舎らしさで押して欲しい。①病院が遠い。②警報(雨・雪)が出ても学校が休みにならない。(大雪は昨年からは休みになるようになったが)警報は1つの判断基準にならないのか?③南校、東校しか分からないが表現、ダンスの演技が運動会にないのは練習時間がないから?前半は学年ごとに50m、80mを走るのを見ているばかり。④ランドセルが重い。経済的に負担。ナイロンリュック型でもよいのでは。⑤雨、雪など室内で幼児が遊べる場が少ない。(狭い)
大きな学校で多数の学校職員による多種多様な考えの下、子どもの多様な可能性を花を咲かせる学校環境が望ましいと思う。
二言目には「働き方改革」、「学校行事だ」と言ってPTA活動やふるさと学習を削る校長、教頭なので困っている。統合前に学校と地域を離すことが目的かとかんぐってしまう。
ルールを少なくして欲しい。きまりは多くの方が一緒にいる時、あった方がスムーズに過ごせると思います。しかし、きまりがない方がよく考えられるになる。失敗して怪我をする、させる、迷惑をかけて気をつけるようになるなど、身を持って学ぶようになる。きまりがあった方が良い結果にはやくたどり着きますが、きまりが少ない中で動くことは自分で自分の行動を考えるようになる。選択するようになるための練習になったり、家族で話し合ったりすると良いチャンスになり得ると思います。
ICT機器を利用した教育にこだわる必要はないと感じます。
学級の中で10人未満でも構わない。その方が良いと考える。保護者(親)がいることはおかしいのか。そう考える親が少ないのは時代遅れなのか。
子どもがのびのびと育て意見を述べられる環境。
プールの回数を減らさないで欲しい。監視員であるならPTAとも連携できると感じるので回数を維持して欲しい。例えば市内の各学校持ち回りで回数を維持して欲しい。子どもの楽しめる機会を増やして欲しい。保護者と学校が相談して決めるようにして欲しい。
自信を育む学校に期待します。
これからの時代、ICTなどをどんどん活用して同じ空間にたくさんの人を集めるのではなく「つながる」ことを大切にしていけばいいのではないかと思う。
タブレットは賛成です。これからはグローバルな社会に対応が必要です。
大人数になるとすべてが大変。子どもにも教員にも目が行き届かない。

4 地域について(ふるさと教育、地区の衰退等) 【アンケート結果 P86~87】
大野高校の空き棟を活用した奥越中高一貫など高校まで大野で育てる環境。再編による新校舎、既存教室の改修に合わせて、IT環境と人材確保、養護児童、生徒空間の確保。地域の支えで行っている行事が学校にとって不可欠なものか、各校で地域協議会を活用して洗い出し、そのうえで学校の機能を地域ごとに固める。
里山を守る為に地域保全向上活動を実施して交付金を出したり、中部縦貫道の開通に向けて道の駅を開設するなど農村部への活性化を進める一方で、コンパクトシティ化を進めている。そのままではいずれ里山を守る人々がなくなり里山は荒れてゆき、道の駅に特産品を出品する人がいなくなる。やはり農村部に人が残っていけるような教育環境を守っていくことが大切だと思う。コンパクトシティ化の先に何かがあるのか?町中に年寄りがあふれ、デイサービスや介護施設が増え、若者は市外へ勤務するようになり、いずれ大野に残るのは年寄りだらけになるのでは?

地域と結びつきながら、よりよい教育の実践を目指してほしい。
大野市の自然、田畑を守り育てる人を教育することが必要。又、義務教育無償にどのように接近するかも大事な教育環境。
大野をテーマにした学習をしていて子供たちは、知らず知らずのうちに大野の事を知る機会となっている。それが大野を大切に思う気持ちにつながっている。
学校は地域のコミュニティの核であり、学校がなくなることと泉、上庄、小山、乾側、阪谷、富田地区は慎重にしてほしい。子供は地域の宝です。
大規模の学校を作ってもいいが、必ず小規模校を少しは残してほしい。もし、不登校になった場合、居場所を残してあげて欲しい。学校はすべての人が学ぶ場であるという言葉にはっとさせられました。子供が少ないなら、地域の人がコミュニケーション力(これからの時代を生きる力)を高める人材となるのはどうだろうかと思いました。
・再編はやむを得ないと思っているがこれから孫の世代、そしてその次の時代を考えていかねばと思う。・小学校は地域にやはりあるべきだと思う。
学校での子供の教育に観点限定したアンケートだと思いますが、学校教育に限定したとしても、問3~11では片手落ちと思う。通学距離が遠くなる。地域が学校から遠くなる。市全体の子供の数は学校が減っても変わらないのに、教職員数は激減する。他にもいろいろ、学校教育にのみ関係することとしても影響する要因はたくさんある。本来は、この他に家庭の教育力、地域の教育力の観点でも考えなければいけない。問3~11の内容では、統合して作る学校という部分が抜け落ち、今ある学校がどんな現状だといいかを問うることになる。
市外に在住している者ですが、身内が大野で暮らしている様子を目の当たりにすると、大野市の現状に合った教育方針があっても良いように思います。他の市町では学ぶ事が出来ない、体験することが出来ない素晴らしい社会資源があるので、それを活かしたアクティブラーニングをすすめても良いと思います。
子どもが大人になってから戻りたい地域、学校になるといいと思います。
農業や林業、祭りや雪遊びの活用、水や米の活用など大野ならではのそれぞれの地域の特色を取り込んだ教育をしてほしい。(続けていってほしい)地域の文化、人材を活用し市外から子どもが呼び込めるような学校(できるなら福井初の特認校)を作してほしい。保育園を教育の一部としてとらえてほしい。保育士の待遇を改善し子どもを安心して預けられるように。放課後、夏期・冬期の子どもが居られる場所を作って欲しい。外でたくさん遊べるように。優秀な教員の育成、獲得に力を入れて欲しい。市外に大野は教育に力を入れているとアピールできるように。部活は校外のクラブ活用など柔軟に対応してほしい。教育と福祉を一体のものだとらえ小児医療体制、共働きへのサポート等、大野は子育てしやすいと思われてほしい。勝山、永平寺と比べ今は全くそう思わない。
地域とのつながりを大切にしてほしいと思う。地域の協力なくして学校はないと思う。学力だけでなく心の教育にも重きを置いてほしい。命の大切さ、感謝の心、他を認めるなど。
地域における子どもを育てる組織、仕組みを見直すことが必要だと思います。学校区というより、生活している区域のつながりを育ててに生かせる仕組みこそ見直すべきだと考えます。
どのような形になっても地域と行政の関わり方が大切だと思います。
今の教育環境に不満はありません。この地域は過疎が進んでいるので学校がなくなるとさらに人口が減ると不安があるとあります。移住してくる人が減るのではないかと。中学校の特色などを生かしてほしいです。
新しい学校の伝統はない、特色はない、地域もない、人がいない、でも子どもだけ多い、地域の協力はないということになりませんか。
私は、外部から新採用で和泉にきました。和泉での地域と深く密着した教育にとてもびつくりすると同時に、とても素晴らしいものだと感じました。この温かさがなくなってしまうといいなあと思います。
小学校は地域に残してほしい。
いろいろな学びの場を子どもが得られるようにしてほしい。学校が教育の中心だけでなく、コミュニティの中核としての役割も考えてはどうか？
地区・地域のアイデンティティが低下することがないような配慮を！
地域の方の協力はとても大切です。どうこの地域力を学校に生かしていくかの具体的な案を準備していただきたい。その際、教師の負担にならないようお願いしたい。
様々な地域の子どもが集まるので放課後の過ごし方や長期休暇の預け先がどうなるのか不安です。子どもが地域から少なくなり村に活気がなくなっていくのを感じます。クラスに配置する先生の数を増やして欲しいです。勉強が苦手、分からない時に手厚く見てくれると嬉しいです。
小学校がなくなると地区がなくなってしまうと思う。本当に少なくなってからではダメなのか。この環境で育ててがしたいと思える所にして欲しい。人口が減ることばかり考えていてマイナスな感じがする。
中学校統合は今すぐにも大賛成。小学校合併は1クラス20人以下になってきたら仕方のないことだと思う。この上庄地区から小学校がなくなると若者、子どもがいなくなる。上庄地区をなくさないためにも上庄のような農村部に再建することも視野に入れて欲しい。
ITやAI教育が進んだら、その分、他人の気持ちを思いやる教育も同じだけ大切にしていくべきではと思います。(授業だけでなく学校生活すべてにおいて)再編はすでに決まっていることのようにですが、そこに子どもがいる限り学校は残して欲しいと思います。子どもは地域の中で地域の人と共に育てられるの理想です。
新しい教育環境=学校教育+児童・高齢者福祉+生涯学習、新しい学校=学校+児童センター+公民館。子どもと高齢者の課題を一緒に解決する。日中の総合学習や放課後児童クラブに高齢者が育て役となる。下校時のスクールバスを高齢者も活用し、地域の足とする。また地域内で活動する様々な人が課外授業の先生となり、地域全体で学校を育てる。人口減少が進む中で子ども達を見守る「目」が地域内で少なくなっている。子どもが成長する過程で出来る限り多くの「目」で守り育てる環境を作る必要があるのではないかと。

<p>和泉特区にして学校の枠をなくした活動を増やしても良いと思う。(スポーツ、伝統芸能)和泉に来たいという家族、独身者に貸せる家、またそういったことで地元と間に入ってくれる窓口が欲しい。ネット検索ですぐ分かるようにして欲しい。和泉が限界集落にならないためには学校は必要だと思う。子どもたちはどう考えるのか知りたいと思った。</p>
<p>理想とか望ましい生徒数や学級数はあるけれども地域の事情やいろいろな事が考えられるので一概には答えられない。</p>
<p>地域の一員として見守り隊を楽しくさせていただいています。もっと地域の人を活用してもらえると嬉しいです。地域の人々を活用して若者も高齢者もそれぞれ役割分担が出来るといいです。アンケートで問うことも大切ですが今日のようにいろいろな方が話し合える場があることが、世代の違う人同士が話し合う場が大切だと強く思いました。</p>
<p>大野市全体的にボトムアップも良いが各地域の独自性を確保したい。</p>
<p>学校の主人公は子ども。子どもためには学校の先生の環境、そして子どもは地域で育つことが原則で大切だという意見は良かった。</p>
<p>合併して12年、学校を無くすことは地域を無くすことにつながる。</p>
<p>学校は地域のコミュニティの核であり、地域の特性を活かしていくべきです。</p>

部活動運営等の方向性について

中学校学習指導要領【抜粋】（平成29年3月文部科学省告示 令和3年4月施行）

総則第5 学校運営上の留意事項

1 教育課程の改善と学校評価、教育課程外の活動との連携等

ウ 教育課程外の学校教育活動と教育課程の関連が図られるように留意するものとする。

特に、生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については、スポーツや文化、科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等、学校教育が目指す資質・能力の育成に資するものであり、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること。

その際、学校や地域の実態に応じ、地域の人々の協力、社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行い、持続可能な運営体制が整えられるようにするものとする。

●中学校学習指導要領解説より（文部科学省ホームページ）

中学生の時期は、生徒自身の興味・関心に応じて、教育課程外の学校教育活動や地域の教育活動など、生徒による自主的・自発的な活動が多様化していく段階にある。少子化や核家族化が進む中であって、中学生が学校外の様々な活動に参加することは、ともすれば学校生活にとどまりがちな生徒の生活の場を地域社会に広げ、幅広い視野に立って自らのキャリア形成を考える機会となることも期待される。このような教育課程外の様々な教育活動を教育課程と関連付けることは、生徒が多様な学びや経験をする場や自らの興味・関心を深く追究する機会などの充実につながる。

特に、学校教育の一環として行われる部活動は、異年齢との交流の中で、生徒同士や教員と生徒等の人間関係の構築を図ったり、生徒自身が活動を通して自己肯定感を高めたりするなど、その教育的意義が高いことも指摘されている。そうした教育的意義が部活動の充実の中のみで図られるのではなく、例えば、運動部の活動において保健体育科の指導との関連を図り、競技を「すること」のみならず、「みる、支える、知る」といった視点からスポーツに関する科学的

知見やスポーツとの多様な関わり方及びスポーツがもつ様々な良さを実感しながら、自己の適性等に応じて、生涯にわたるスポーツとの豊かな関わり方を学ぶなど、教育課程外で行われる部活動と教育課程内の活動との関連を図る中で、その教育効果が発揮されることが重要である。

- ① スポーツや文化及び科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養、互いに協力し合って友情を深めるといった好ましい人間関係の形成等に資するものであるとの意義があること、
- ② 部活動は、教育課程において学習したことなども踏まえ、自らの適性や興味・関心等をより深く追求していく機会であることから、第2章以下に示す各教科等の目標及び内容との関係にも配慮しつつ、生徒自身が教育課程において学習する内容について改めてその大切さを認識するよう促すなど、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること、
- ③ 一定規模の地域単位で運営を支える体制を構築していくことが長期的には不可欠であることから、設置者等と連携しながら、学校や地域の実態に応じ、教員の勤務負担軽減の観点も考慮しつつ、部活動指導員等のスポーツや文化及び科学等にわたる指導者や地域の人々の協力、体育館や公民館などの社会教育施設や地域のスポーツクラブといった社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行うこと、

をそれぞれ規定している。

各学校が部活動を実施するに当たっては、本項や、中央教育審議会での学校における働き方改革に関する議論及び運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン（平成30年3月スポーツ庁）も参考に、生徒が参加しやすいよう実施形態などを工夫するとともに、生徒の生活全体を見渡して休養日や活動時間を適切に設定するなど生徒のバランスのとれた生活や成長に配慮することが必要である。

その際、生徒の心身の健康管理、事故防止及び体罰・ハラスメントの防止に留意すること。

部活動運営等の方向性について

(1) 部活動(常設)の状況

	運動部	文化部
開成	陸上・バレーボール・男女バスケットボール・男女卓球 女子ソフトテニス・野球・サッカー	吹奏楽・創造
陽明	陸上・男女バレーボール・男女バスケットボール 男女卓球・バドミントン・野球・(サッカー)	吹奏楽・美術・自然
上庄	男子野球・男子バレーボール 女子バスケットボール・女子ソフトボール	吹奏楽
尚徳	陸上・女子バスケットボール・野球	カルチャー
和泉	陸上・剣道・(卓球)	

(2) 平成20年度以降に廃止や統合した部活動

	運動部	文化部
開成	H25男子ソフトテニス部を廃止 (H24の夏季大会まで活動)	H22理科部と技術部を統合→理科・技術部 H23理科・技術部を改称→科学技術部 H22家庭部と美術部を統合→家庭・美術部 H23家庭・美術部を改称→創作部 H28科学技術部と創作部を統合→創造部
陽明	H20 剣道部を廃止 H30 女子ソフトボール部の休部	H23 科学部と映像表現部を統合→自然部
上庄	なし	
尚徳	H25 8月 男子バスケットボール部の休部 H25 8月 女子バレーボール部の休部	H25 11月 吹奏楽部の休部
和泉	なし	

部活動運営等の方向性について

(3) 意見交換会での意見

部活が昔に比べてどんどん減っていて寂しさがある。

教育の中で部活動がすべてではないと思う。中学校1校になると競争相手がいなくなると言っていたが、県内に競争相手があるので、競う相手がいない訳ではないと思う。

中学校と小学校では、根本的に問題が違うと感じる。中学校が直面しているのは部活の問題。一緒に議論しているが、抱えている問題が違うので中学校を先行して考えるなどをしてほしいと、先に進まないと思う。

早く再編の方向性を決めた方がよい。中学校における部活動は大切で、たくさん部活があった方がよい。いろいろな絆が生まれる。中学校2校ぐらいいにして、競い合った方がよい。働き方改革で部活の練習が減り、自主練習が行われている。

今、スポーツなどで、やりたい子がやれない、選べない状況で、小学校でスポ少などの団体競技をしていても、中学校で個人競技に変わる子どもがいる。

部活については、市が教育の一環として割り切るのであれば、中学校対抗にする必要があるのかと思う。競い合いたいのであれば、クラブチームに任せると、部活をどう捉えるかを示した方がよい。

その競技を継続したいのであれば部活でなくてもよい。その中学校の人数で出来る部活をやればよい。違う競技をやりたいのであれば、市外や県外に出ることも可能である。

小規模校ほど地域の人々が学校を大事にする。学校がなくなると地域の人が集える場所がなくなる。小規模校だから教育ができない訳ではない。ITを使えば、お互いに意見を言い合える。中学校で好きな部活が出来ないというが、これは子どもが部活をしている保護者が言うことである。働き方改革と言われ、教職員が土日を使ってまで部活をする時代ではない。中学校を1つにするのではなく、大野市で指導者を雇って、スポーツ少年団のようにやればよい。子どもの要望に合わせられる。

部活動運営等の方向性について

(4) 部活動の課題と教育委員会の考え

▶ 意見交換会、アンケートからの課題

生徒数の減少により、多くの人数を必要とする部活動が休止、廃止され、選択肢が少なくなっている。野球、サッカーについては、クラブチームに所属して活動し、部活動には所属しない生徒もいる。



□ 教育委員会の考え

中学校の再編にあたっての基本姿勢を「市全体で育てる」としている。

中学校は、自立を支援することや、多様な人との関わりの中で社会的にもバランスの取れた人間性を育てることを基本に考えていく方針である。

このため、専門教科教員を配置し、全教科において知的にも情動的にもバランスの取れた教育を保証でき、規模に移行することで、部活動の選択肢も広がるものと考えます。

ただし、部活動のあり方については大きな過渡期を迎えている時代であり、社会スポーツとの適切な関係も模索しながら進めたい。

令和2年度 大野市中学校部活動の現状 (令和2年7月1日現在)

1 常設の部活動名と所属人数 (教員数は校長、教頭、養護教諭、栄養教諭を除く、生徒数合計は令和2年5月1日現在)

No	中学校	部活動名 (常設)	1年			2年			3年			総計		
			男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
1	開成中	陸上部	7	4	11	4	7	11	12	5	17	23	16	39
2	開成中	野球部	4	0	4	9	0	9	11	0	11	24	0	24
3	開成中	サッカー部	10	0	10	11	0	11	8	0	8	29	0	29
4	開成中	バレーボール部	2	8	10	0	5	5	0	0	0	2	13	15
5	開成中	男子バスケットボール部	10		10	8		8	7		7	25	0	25
6	開成中	女子バスケットボール部		6	6		3	3		4	4	0	13	13
7	開成中	女子ソフトテニス部		10	10		11	11		14	14	0	35	35
8	開成中	男子卓球部	6		6	13		13		7	7	32	0	32
9	開成中	女子卓球部		3	3		5	5		7	7	0	15	15
10	開成中	吹奏楽部	2	11	13	3	12	15	2	12	14	7	35	42
11	開成中	創造部 (科学技術部+創作部)	2	4	6	4	10	14	1	4	5	7	18	25
		合計	43	46	89	52	53	105	54	46	100	149	145	294
		(教員数：21人) 生徒数合計			89			105			101			295
1	陽明中	陸上部	18	4	22	10	4	14	2	4	6	30	12	42
2	陽明中	野球部	8		8	2		2			0	10	0	10
3	陽明中	サッカー部			0			0	2		2	2	0	2
4	陽明中	男子バレーボール部	8		8	13		13	5	3	5	26	0	26
5	陽明中	女子バレーボール部		9	9		5	5		3	3	0	17	17
6	陽明中	男子バスケットボール部	7		7	4		4	14		14	25	0	25
7	陽明中	女子バスケットボール部		9	9		5	5	6	6	6	0	20	20
8	陽明中	バドミントン部	10	7	17	4	12	16	5	9	14	19	28	47
9	陽明中	男子卓球部	12		12	9		9	12		12	33	0	33
10	陽明中	女子卓球部		7	7		4	4		7	7	0	18	18
11	陽明中	吹奏楽部	1	13	14		8	8		17	17	1	38	39
12	陽明中	美術部	4	5	9	4	9	13	1	8	9	9	22	31
13	陽明中	自然部	4	3	7	2		2	5	1	6	11	4	15
		合計	72	57	129	48	47	95	46	55	101	166	159	325
		(教員数：26人) 生徒数合計			134			104			112			350
1	上庄中	野球部	7		7	2		2	3		3	12	0	12
2	上庄中	男子バレーボール部	4		4	6		6	8		8	18	0	18
3	上庄中	女子バスケットボール部		6	6		1	1		5	5	0	12	12
4	上庄中	女子ソフトボール部		2	2		6	6		1	1	0	9	9
5	上庄中	吹奏楽部	1	4	5	2	6	8	3	6	9	6	16	22
		合計	12	12	24	10	13	23	14	12	26	36	37	73
		(教員数：6人) 生徒数合計			24			24			26			74
1	尚徳中	陸上部	11	3	14	9	8	17	10	6	16	30	17	47
2	尚徳中	野球部		1	1	6		6	5		5	11	1	12
3	尚徳中	女子バスケットボール部		8	8			0		12	12	0	20	20
4	尚徳中	カルチャー部	1	1	2	2	2	4	3	0	3	6	3	9
		合計	12	13	25	17	10	27	18	18	36	47	41	88
		(教員数：7人) 生徒数合計			25			27			36			88
1	和泉中	陸上部	2		2			0	2		2	4	0	4
2	和泉中	剣道部			0			0		2	2	0	2	2
3	和泉中	卓球部			0			0			0	0	0	0
		合計	2	0	2	0	0	0	2	2	4	4	2	6
		(教員数：5人) 生徒数合計			2			0			4			6

2 平成20年度以降に廃止や統合した部活動

- 開成中：H22 理科部と技術部を統合→理科・技術部 H23 理科・技術部を改称→科学技術部
- H22 家庭部と美術部を統合→家庭・美術部 H23 家庭・美術部を改称→創作部
- H25 男子ソフトテニス部を廃止 (H24の夏季大会まで活動)
- H28 科学技術部と創作部を統合→創造部
- 陽明中：H20 剣道部廃止
- H23 科学部と映像表現部を統合→自然部
- H30 女子ソフトボール部の休部
- 上庄中：なし
- 尚徳中：H25 男子バスケットボール部の休部
- H25 女子バレーボール部の休部
- H25 吹奏楽部の休部
- 和泉中：なし

➤ 教育環境に関する意見交換会での意見

・再編に賛成する人の意見

5 部活動について【教育環境に関する意見交換会結果報告書 P9～10】
子どもが野球をしているが、部活でやりたい部に入れないのは可哀想と思う。陽明の子たちは軟式野球部の人数が足りないため、硬式野球をやるしかない。
クラブ活動の掛け持ちはできないのか。いい意味で世界が広がるのでは。
陽明でさえ、野球部やサッカー部の人数が揃わなくなっており、ソフトも昨年廃部になった。部活が昔に比べてどんどん減っていて寂しさがある。有終西では各学年が1クラスで6年間一緒にいいこともあるが、トラブルがあった時にクラス替えができない。複式が悪いとは思わないが、もう少し大きい規模の方がいいと思う。
部活をするためではなく、教育を受けるためにやるんだという考えが必要。通学に時間差ができ、結局、部活が出来ないこともある。和泉は通学に時間がかかり、部活ができなくなり、部活をするために住所を移さないといけない、そのようにつながっていくこともある。今の生活で教育をきちんと受けられる環境を行政は整備していかないといけない。平等に教育を受けられることに主眼を置いてほしい。西校にも子どもがいるが、1クラス20人ぐらいが、子どもも先生に見てもらっているという安心感がある。再編に反対ではない。現状に合わせて考えて変えていかなければならない。
教育の中で部活動がすべてではないと思う。中学校1校になると競争相手がいなくなると言っていたが、県内に競争相手があるので、競う相手がなくなる訳ではないと思う。なるべく早く、再編して、修繕経費などの管理経費を他の教育に充ててほしい。
上庄、尚徳は陽明や開成の子と比較すると、おっとりしている。小規模校のため、大人の目が届きやすいなどのメリットがあるが、競争心がないとか、居心地が悪い子にはつらいと思う。小学校でクラブをやっている、中学校でその部活がないから、競技を断念するか、競技を続けるために福井などの学校へ行く子もいる。中学校1校となった時、行き場がない子は変われない。2校ぐらいに分けるのが理想だと思う。
上庄に小学校を残してほしい。中学校は、ソフトボール部の人数が少なく他の部から借りてくることも考えている。
小学校は地元に残してほしい。地域と密着した活動が多い。子どもが小さいうちは、地域で育てるという考えは素晴らしいと思っている。中学校は、野球部がギリギリで成り立たない状況であり、合併を進めてほしい。市内で校風の違う学校が切磋琢磨して、意見を共有し合えるといいと思う。
中学校と小学校では、根本的に問題が違うと感じる。中学校が直面しているのは部活の問題。一緒に議論しているが、抱えている問題が違うので中学校を先行して考えるなどをしないと、先に進まないと思う。
小学校は地域に残してほしい。自分の生活の一端をとられるような気がしている。再編計画が出たとき、子どもが上庄小学校がなくなることにに対して寂しそうにしていた。中学校は部活の問題が一番であるが、選択肢が増えることでストレスになるのではないかと考えている。部活だけを市全体でつくるのがいいのではと思っている。複式のある学校の再編は、その地域で進めていただき、上庄は別で考えてほしい。
今は早く統合してくれた方が良く感じている。現状の尚徳は、授業がうまくいかなかったり、いじめがあったりする。小さい学校でいじめがあった時、逃げ場がなくなると感じている。尚徳から大きい学校へ移った人から、メリットやデメリットはあるが、対応をしっかりとっていて、移って良かったと聞いている。部活では、小学校のときにやってきた競技がないため、入る部活がない。子どもの楽しみがない。陽明や開成の部活に行ける環境をつくってほしい。
早く再編の方向性を決めた方が良く。中学校における部活動は大切で、たくさん部活があった方が良く。いろいろな絆が生まれる。中学校2校ぐらいにして、競い合った方が良く。働き方改革で部活の練習が減り、自主練習が行われている。
今、スポーツなどで、やりたい子がやれない、選べない状況で、小学校でスポ少などの団体競技をしている、中学校で個人競技に変わる子どもがいる。
大野を出た時に、大野出身であるという誇りを持てる教育をしてほしい。そうすれば県外に出た時に自信を持てると思う。いずれ、大野が好きで戻ってくる。バス通学は部活動の時間などが制限されるためハンディである。部活の練習をしたくても切り上げないといけなかった。ハンディをなくす方法を検討してほしい。
部活については、市が教育の一環として割り切るのであれば、中学校対抗にする必要があるのかと思う。競い合いたいののであれば、クラブチームに任せるなど、部活をどう捉えるかを示した方がいい。
考える力をつける環境が必要と考える。また、いろいろな体験ができることが必要。上庄は登下校で自然の四季を感じることができる。中学校は2から3校にして、出来る限り村部に配置してもらった方がいいと思う。部活は市全体で作って、練習場所へはスクールバスで送迎する方がいいと思う。
富田小や尚徳中では、子どもの顔を見たら保護者の顔が浮かび、先生も学校に行くと子どもの状況を教えてくれる。大きい学校でもこのような環境が保たれるのか心配である。再編すると校区が広がり、保護者の顔が分からないため、保護者から子どもの情報を聞けない心配がある。中学校では部活を選べないので可哀想である。市全体で部活が選べるよ

うな形を考えて欲しい。他の学校の子ともと交わる機会にもなる。
部活が出来ないから再編するのではなく、勉強面で支障が出るから再編する方向で考え、部活動は部活動で考えないといけな
中学校だけの再編が良いと思う。小学校は各地区にあった方が良い。中学校は部活のことを考えると人数は多い方が良く、2校ぐらいが良いと思っている。
上庄は、保育園、小学校、中学校と一緒に良い所も悪い所もある。部活が寂しいということで中学校の再編は良いかなと思う。小学校は子どもが減って寂しいと思うが、市が別の面で頑張ってもらい、若い人が戻って来られる大野になって欲しい。自分の子どもに対して、仕事がない大野に「帰っておいで」と胸を張って言えない。
中学校は部活が少ないから再編をしていくことは分かる。
大きい学校になれば、友だちが多くでき、部活動も選べ、団体競技も出来て、自分のやりたいことが広がる。そういうことは子どもにとって大切なことだと思う。
中学生であれば市街へ通える年齢でもあるので、再編により、部活動の選択も友だち関係も広がると思うし、将来の進路や夢が広がるのではないかと思った。
学校は最低1学年2クラスは必要と思っている。年頃になると気の合わない友だちが出来たりするので、クラス替えが出来ることが必要と思う。音楽、美術、技術、家庭などの教科に専任の教職員が配置できるような人数の規模にして欲しい。部活動に関しても子どもが自分たちのやりたいことを見つけられる規模にして欲しい。再編計画を進める中で「地区の核がなくなる」、「母校がなくなるから再編は嫌だ」などの反対意見が出ていたが、第一に考えて欲しいのは子どものことである。このことをこれまで以上に強く言って欲しい。再編はもっとスピード感を持ってやって欲しい。みんなが自分の子どもは関係ないと言っていたのでは、これからの小中学生のためにならないので、早めにやった方が良い。
中学校の部活が少なく、やりたい部活がない生徒が多いと思う。中学校が2校に再編された場合、2校で1つの部活を作るなどの検討もして欲しい。
本心では、子どもが1人でいる限り学校を続けて欲しい。しかし、子どものためを思うとそういう訳にはいかない。子どもが少ないと、しっかり先生から勉強を教えてもらえると思うが、スポーツは出来ないと思うので悩ましい所である。
子どものことを考えれば、もう少し多い方が良い。中学校では大人数の方が部活が出来る。
平日の部活は保護者が迎えにいけるが、土日の部活については、仕事がある保護者もいるのでスクールバスの送迎などをお願いしたい。
再編は早くして欲しい。中学校が1校になっても、市外に出れば他校と練習試合などが出来る。現在、校外の部活に所属している生徒もいるが、自分は校内の部活をするべきと思っている。
小学校時代に続けてきたクラブ(スポーツ)が中学校にないので困っていると聞いている。子どものやりたい部活が出来るようにしてやりたい。また、保育園の時に同級生にいじめられていて、小学校、中学校は1クラスでクラス替えがなく、ようやく高校で離れることが出来たという話もある。
部活動では野球、ソフトボール、バレーボール、水泳など学校の先生では教えられるレベルは限られてしまっているので、部活動の時間帯は親に責任を持ってやらせ、先生は部活動をしなくて授業、放課後などだけを見てもらうだけで良い。
部活を通じて校外の子どもなどいろいろな人と触れ合うのは大きいことであり、他校と競い合うのも必要なことではあるが、部活動を学校単位で行わなくても良いと思う。

・再編に反対する人の意見

5 部活動について【教育環境に関する意見交換会結果報告書 P17～18】
有終西は、子どもの数が多くも少なくもなく、ちょうど良い。中学校を考えると、再編計画は1校で600人で、多すぎると思った。部活ありきではない。その競技を継続したいのであれば部活でなくても良い。その中学校の人数で出来る部活をやれば良い。違う競技をやりたいのであれば、市外や県外に出ることも可能である。
部活などの問題がなければ、少人数の方が良いと思う。
小規模校ほど地域の人が学校を大事にする。学校がなくなると地域の人が集える場所がなくなる。小規模校だから教育ができない訳ではない。ITを使えば、お互いに意見を言い合える。中学校で好きな部活が出来ないというが、これは子どもが部活をしている保護者が言うことである。働き方改革と言われ、教職員が土日を使ってまで部活をする時代ではない。中学校を1つにするのではなく、大野市で指導者を雇って、スポーツ少年団のようにやれば良い。子どもの要望に合わせられる。
部活を学校単位で行わず、学校のエリアごとに行えば良い。

小中学校教職員意見交換会での部活動に関する意見

開催日時 令和元年8月5日(月)午後2時～4時

場所 学びの里「めいりん」

参加人数 112人

主な意見

- ・部活動の適正な規模が必要。中学校2校。
- ・部活動は社会教育に任せて気にしない。
- ・部活動指導員の積極的な活用を行い、中学校教員の負担を軽減。
- ・中学校2校にして部活を男女で分ける。例：A中学校は男バスケ、女バレー、男卓球、女バドミントン、B中学校に女バスケ、男バレー、女卓球、男バドミントンなど。
- ・学社融合も含めた部活動指導の柔軟化が必要である。
- ・ある程度、子どもたちが選択できるぐらいの数があると良い。教員は2人以上の体制で。
- ・部活動は必要だが外部に任すことができる種目については、外部に任せていく。
- ・機能しなくなるので中学校の人数が少ないこと考えないといけないが、部活動だけで統廃合は決められないと思う。
- ・再編で人数が増えたら、部活、金管クラブなどの指導が大変になるのでは。
- ・みんスポのような市全体で取り組める部活動にして、移動はスクールバスを利用する。
- ・部活動で選択肢の幅があまりにも少ないのは駄目である。複数校で合同でというのも移動時間の制約が出てやりにくい。
- ・大野市の中学校の枠を解いて部活動を運営するシステムを新しく作る。
- ・選べた方が良くと思うがそこまでしたいものがあれば、校区外通学をするべきで、基本は学校人数でクラブ数を決める。
- ・大野市で管理し、種目を多くする。
- ・部の数はなるべくたくさん作り、大人数だからこそ出来るものを。
- ・部活にこだわらず、校外でもやりたい活動が出来る環境が整うと良いと思う。
- ・教員以外も含んで指導者の専門性を向上し、子どもに部活動の選択の幅を広げてほしい。
- ・部活動の学校の枠を解くとともに、中体連の運営の見直しを図る。
- ・学校単位でなく地区の活動として取り組む方が良い。
- ・部活動については考えなくて良い。
- ・部活動と生徒指導はイコールではない。
- ・集団での部活が大事である。

令和2年6月

第1回大野市小中学校再編計画検討委員会
会議録

日 時：令和2年6月22日（月）午後7時00分～午後8時45分

場 所：結とぴあ 3階 305・306号室

第1回大野市小中学校再編計画検討委員会 次第

と き 令和2年6月22日
午後7時より
ところ 結とびあ

1 開会、委嘱状交付

2 教育長あいさつ

3 正副委員長選出

4 議事

(1) 大野市小中学校再編計画検討委員会について (資料No.1、2)

(2) 再編計画の経過について (資料No.3)

(3) 意見交換会、アンケートの結果について

(4) 教育環境の現状について (資料No.4)

(5) 再編計画の見直しに向けた教育委員会の方針について (資料No.5)

5 その他

6 閉会あいさつ

<出席者>

委員	松	木	健	一	
委員	遠	藤	洋	子	
委員	中	村	昌	嗣	
委員	松	田	寿	子	
委員	朝	日	智	幸	
委員	金	井	和	信	
委員	山	川	龍	一	
委員	常	見	悦	郎	
委員	宮	澤	則	博	
委員	細	道	常	貴	
委員	丸	山	力	哉	
委員	上	田	智	亮	
委員	山	本	恭	子	
委員	伊	藤	惠	利	
委員	伊	藤	雄	奈	
委員	伊	藤	雄	次	
事務局(説明者)	教育長	久	保	俊	岳
	事務局長	清	水	啓	司
	教育総務課長	横	田	晃	弘
	学校教育審議監	千	田		佐
	教育総務課指導主事	松	下	裕	子
	教育総務課課長補佐	小	林	勝	信
(書記)	教育総務課主事	堀		利	考

<傍聴者>

10人

【開会】

【事務局】本日は10名の傍聴を許可したので報告する。それでは第1回大野市小中学校再編計画検討委員会を開会する。

——<大野市教育理念の唱和>——

【委嘱状交付】

【事務局】第1回目の会議なので委嘱状を交付する。

——<委員名簿読み上げ>——

【教育長】大野市小中学校再編計画検討委員会委員に委嘱する。任期は令和2年6月22日より、設置要綱に定める所掌事項の検討及び報告が終了するまでの間とする。

【教育長あいさつ】

【教育長】令和元年5月12日にこの事業のキックオフとして、結の故郷教育シンポジウムを開催した。それから1年が経過し、その間、大野市教育委員会では小中学校の保護者や未就学児の保護者、地域住民、教職員、各団体を対象に41箇所意見交換会を開催し、アンケートを集計した。また、児童生徒を対象に意識調査も実施した。以上を踏まえての検討委員会となるのでよろしくお願いしたい。

大野市は令和2年度と令和3年度の2年間、国立教育政策研究所の指定を受けて「魅力ある学校づくり」を進めることとしている。1年目の令和2年度は、陽明中学校、下庄小学校、有終東小学校、乾側小学校で構成する陽明中学校区研究会で取り組みを進め、2年目の令和3年度には、全ての小中学校にその成果を広げ、大野市全体のレベルアップを図っていく。児童生徒が楽しく学校に通うことができ、保護者や地域住民に信頼される学校の姿とは何かを見つめなおしていく。

学校再編は「魅力ある学校づくり」の一環である。児童生徒数が減少し学校再編が大きな問題となっているが、再編することが目的ではなく、大野の子どもたちに望ましい教育環境を整備することが目的となる。

この検討委員会では、現計画の特に、学校数や再編時期、再編方法、この3つについて議論していただきたい。あわせて、普段抱いている学校の在り方について意見をいただきたい。

新型コロナウイルスにより世の中が劇的に変化しようとしている。学校の在り方も変化しなければならない。一方、変わってはならないこと変えてはなら

ないこともある。不易と流行を見極めることが大切な時期に来ている。

学校再編は難しい課題であるが、大野市の未来の姿を考えると、絶好の機会となる。必ず答えはあると確信しているので、一緒に解を探していきたい。

【事務局】本日が初めての会議となるので、委員の皆様から一言自己紹介をお願いします。

——<委員自己紹介>——

【事務局】本日出席の事務局職員の自己紹介をする。

——<事務局自己紹介>——

【正副委員長選出】

【事務局】設置要綱第5条第2項により、委員の中から正副委員長を選出したい。選出方法についてどのようにするとよろしいか。

——<事務局一任の声あり>——

【事務局】事務局一任としてよろしいか。

——<異議なし>——

【事務局】事務局案を申し上げる。委員長に福井大学理事・副学長の松木健一委員を、副委員長に学識経験者の遠藤洋子委員を選出する。

——<承認>——

【事務局】正副委員長を代表して、松木委員長に一言あいさつをお願いします。

——<委員長あいさつ>——

【委員長】今の時代はグローバル化が進み、合意形成能力が最も必要な能力とされている。学校は一人一人のアイデンティティでもあるので、合意をしていくのは難しいが、「魅力ある学校をつくる」という目標に向けて、委員全員が「これしかない」と納得できる報告ができるような検討委員会にしていきたい。

【事務局】設置要綱第5条第3項により、これ以降の進行は委員長にお願いします。

【議事】

【委員長】(1) 大野市小中学校再編計画検討委員会について、事務局の説明をお願いします。

——<事務局説明>——

【委員長】ご意見、ご質問等があればお願いします。

——<意見・質問なし>——

【委員長】(2) 再編計画の経過について、(3) 意見交換会、アンケートの結果について、事務局の説明をお願いします。

——<事務局説明>——

【委員長】ご意見、ご質問等があればお願いします。

——<意見・質問なし>——

【委員長】(4) 教育環境の現状について、事務局の説明をお願いします。

——<事務局説明>——

【委員長】ご意見、ご質問等があればお願いします。

【委員】小中学校の施設の状況について、耐震化の状況はどうか。

【事務局】乾側小学校を除いて耐震化が完了している。ただし、コンクリートの強度等については耐震化しても変わらないので、別に考える必要がある。

【委員長】国の方針としても、建物を50年～60年使用するという方向に切り替わってきている。

【委員】中学校における免許所有教員の配置がない学校については、家庭や技術などの授業をどのように実施しているのか。

【事務局】免許所有教員がいなくても、他教科の教員が福井県の研修を受け、福井県教育委員会の承認を得たうえで授業を実施している。

【委員】陽明中学校の野球部やサッカー部について教えてほしい。

【事務局】今現在、単独で試合に出られない人数となっている。

【委員長】(5) 再編計画の見直しに向けた教育委員会の方針について、説明をお願いします。

【教育長】再編を検討していくため、基本的な考え方を示した。この資料を作った目的は3点ある。1点目、私が議会や意見交換会等で答えてきたことをまとめた。2点目、令和元年度の取組を反映した。3点目、検討委員会で検討していくための基本的な部分を整理した。

——<教育長説明>——

【委員長】ご意見、ご質問等があればお願いします。

【委員】専門教科教員の配置はどのように決定しているのか。

【事務局】児童生徒数により学級数が変わり、学級数により教員の配置が決まる。学級数が少ない学校は専門教科教員の配置が難しくなる。

【委員長】議事については、以上とする。

【その他】

【事務局】本委員会の今後の議論の参考として、松木委員長に講話をお願いしたい。

——<委員長講話>——

〈講話概要〉

- ・コロナ禍の中で一番大きなキーワードは「3密」である。
- ・医療や教育などの人にかかわる仕事は「親密」な関係を築くことが必要である。

- ・アフターコロナを考えた場合、「3密」を維持しながら「親密」な状態を築くというアンビバレント（相反するよう）なことを求められている。
- ・ヴァーチャルは解決策の一つかもしれない。
- ・県外の学校では、5月からネットを使って普通の時間割で授業を実施しているところもある。
- ・ネットを利用し授業ができているところ、全くできていないところとの学力に差がついていく。
- ・日本は教師に対する信頼が厚くあったため、先進国の中でICT化が遅れた。
- ・アフターコロナは今まで通りには戻らず、ICT化を進めていく必要がある。
- ・GIGAスクール構想が進めば、学校の形態が変わってくる。
- ・ICT化が進めば、宿題や授業の在り方が変わってくる。
- ・国の方針が大きく変わってくる中で、学校がどうあるべきか問われてきている。
- ・これからは学校の本質を問い直すことをしていかなければいけない。
- ・勉強して覚えることは学校の専売特許ではない。
- ・単に覚えることが目的であれば、ICTの活用によって統廃合しなくてもいいという可能性も出てくるかも知れない。
- ・覚える学習活動以外のことを学校が提供できるかが問われている。
- ・それがどの程度の学校規模であれば維持できるのかが問われている。
- ・学校は何をすることなのか、適正規模とは、学力とは何かを考えていく必要がある。
- ・学力の在り方が変わってくる中で、どういう学校の姿がいいのかを考えていかなければいけない。
- ・小学校、中学校、保育園という枠を取っ払っていくこともいいかも知れない。
- ・大野市の実情にあった、小さな地域の中でできる仕組みを考えていく必要がある。
- ・地域の核を、学校を中心に様々なものを組み合わせていくこともあるかも知れない。
- ・学校だけの問題ではなく、まちづくりの問題として学校を位置付けていかなければいけない。
- ・知識集約型社会の今、リモートワークやテレワークが増えてきている。
- ・これからは地域の豊かさを確認しながらリモートワークができるような人材が求められてくるかも知れない。
- ・単純に学校再編だけを考えるのではなく、地域づくりと組み合わせて考えていく必要がある。

【事務局】 次回の会議では、各委員の再編に対する想いを述べていただきたいと考えている。

【事務局】 次回の会議は7月30日（木）を予定している。

【閉会】

——<副委員長あいさつ>——

【副委員長】 本当に今学校がなすべきこと、学校でなければできないことは何なのか、そこまで考えて、それに見合った学校の再編あるいは適正規模について慎重に考えていかなければいけない。次回までに、大野の子どもたちにとってどんな再編の在り方が望ましいのかじっくり自問自答していきたい。次回もまたより慎重に丁寧な話し合いができるようによろしくお願いいたします。